

検証する具体的な施策(修正案)に対する各委員からの意見

視点	意見の内容
視点1	・現に困難を抱えている場合と、今後予想される場合があること、「視点1」の位置が妥当か疑問。
視点2	・このような取組や相談できる場があることを広める有効的手段も考える必要がある。
視点3	・社会参加、国際交流、文化芸術体験などの創出事業づくり
	・子どもが主体的にできる活動とは？短期や継続型？
視点4	・少子高齢化に対応して、高齢者(札幌市老人クラブ連合会)との意見交換
	・具体的な事業展開が難しいかもしれない。
	・教職員の負担は大丈夫か疑問。
	・地域活動は費用の問題もあると思うが、公的予算はあるのか？
視点5	・札幌市子どもの権利委員会委員の街頭啓発(例、地下歩行空間)
	・多くの市民が見る「広報さっぽろ」がいいと思う。
	・研修で学んでいる内容を「広報さっぽろ」の中でオープンにし、知らせてほしい。
その他	・年代別一覧もついたので分かりやすくなった。
	・視点ごとに検証すべき施策を設定し、なおかつ、子どもたちの年代を横断的にフォローすることも明示されており、全体としてわかりやすく整理されている。
	・視点1・2と視点3・4を大きく分けて、視点5と合わせ、3つの大まかな視点で考えていった方が、より視点間が重複する議論を少なくすることができる。
	・いじめや虐待についての対策では、学校の校種を超えて、長い視点で考えていく必要がある。視点も大切ではあると思いますが、この年代はどのような対策が必要であるのかという検証する視点を大切に議論をすることができるような検証の進め方ができるようにしていただきたい。